

放課後等デイサービス自己評価表

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	回答数	回答率	改善目標、工夫している点など
体制整備	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	2	1		3	100%	学習スペースの確保が難しいため、時間を決めて取り組んでいる。相談室を活用することもある。
	職員の配置数は適切であるか	3	0		0	0%	基準上は満たされているが、送迎では職員の少なさを感じる時がある。どうしても希望時間に合わせられない場合は学校や保護者に協力をお願いしている。
	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	3			3	100%	現在の利用児童に対してのバリアフリー化はなされている。
業務改善	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	3			3	100%	朝礼等で検討・確認している。
	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	3			3	100%	保護者との認識のずれを改善につなげていく。情報発信して保護者との連携を深めていく。
	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	3			3	100%	
	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	3			3	100%	
	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	3			3	100%	外部研修にも積極的に参加し、資質の向上に努める。
適切な支援の提供	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	3			3	100%	子どものニーズも聞き取りながら、意欲的に参加できる活動計画等を作成していく。
	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	3			3	100%	S-M社会生活能力検査結果を基に課題を把握し、課題に沿った支援を行っている。
	活動プログラムの立案をチームで行っているか	1	2		3	100%	個人で立案した場合は、職員間で検討・共有するようにしている。
	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	3			0	0%	保護者との認識のずれが見られる。活動の内容・ねらいが保護者にもわかるように情報発信していく。
	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか			3	3	100%	日々の活動では課題やねらいを設定して行っているが、職員間で個々の課題を共有し、個別支援を充実させたい。
	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	3			3	100%	個別活動を充実させる工夫をしていく。
	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	2	1		3	100%	役割分担をより明確にし、きめ細やかな支援につなげていく。
	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	3			3	100%	翌日の朝礼で振り返りを行っているが、パート職員も含めた話し合いの機会を設けていきたい。
	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	3			3	100%	記録の内容を共有して、支援の検証・改善につなげていく。
	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	3			3	100%	今後も定期的に行っていく。
関係機関や保護者	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	3			3	100%	
	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	1	2		3	100%	学校とも細目に連絡を取り、連携がとれるように働きかけていく。
	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		3		3	100%	事例が発生した場合には体制を整えていく。
	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		3		3	100%	情報を共有できるよう連携を深めていく。
	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		3		3	100%	事例が発生した場合には情報提供できるようにしていく。
	児童発達支援センターや発達障害者や支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		3		3	100%	研修等積極的に受けていく。
	放課後等児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			3	3	100%	戸外活動などで関わることもある。
	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	3			3	100%	
	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	3			3	100%	連絡帳の活用、送迎時に保護者との会話で伝えるように心掛けている。
保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		3		3	100%	必要に応じて心理士の個別相談会への参加を呼び掛けている。	

保護者への説明責任等	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	3			3	100%	
	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	2	1		3	100%	送迎時など話しやすい雰囲気・環境をつくったり、面談の機会を増やせるよう努力する。
	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	1	1	1	3	100%	保護者参加型イベント等を企画し、保護者同士が交流できる機会を設けていく。
	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	3			3	100%	
	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか			3	3	100%	現在は必要時にお知らせを作成し配布している。今後、定期的なお便りの発行を検討していく。
	個人情報に十分注意しているか	3			3	100%	
	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	3			3	100%	
非常時等の対応	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			3	3	100%	
	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者が周知しているか		3		3	100%	保護者への周知がなされるよう説明等していく。
	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	3			3	100%	
	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応しているか	3			3	100%	
	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3			3	100%	
	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	3			3	100%	改めて保護者の確認をして、対応していく。
	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	3			3	100%	積極的に事例を挙げていき、危機管理意識を高めていく。

## 事業所における自己評価結果(公表)

公表年月日:令和 2 年 3 月 31 日

事業所名 POOCOかいりゅうおう

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3		十分に広いスペースがあるが、活動内容に合わせて工夫して環境設定を行っている。	近隣の公園を天気の良い日には利用していく。
	2 職員の配置数は適切である	3		配置基準はしっかり配置している。戸外活動などにおいてはなるべく多く配置出来るよう努力している。	男性職員を配置し、年齢の高い男性利用者によりきめ細やかな支援が出来るようにする。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	1	車いすを必要とする利用者の受け入れには改善が必要。	完全バリアフリーではないが、引き続き常に職員が見守る中で活動を行っていく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3		全員が方針・目標を掲げ、年間スケジュール化し、毎月モニタリングしている。	職員面談を全社員と行きよりしっかりと振り返り、改善点を確認していく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3		自己評価の結果を全職員で共有し、改善点などを話し合い、安心して過ごせる空間の提供に努めている。	保護者様のアンケート回収率が62%とまだまだ低く、今後工夫が必要であり、次年度はアンケートを直接お届けし、記入のお願いをする方法をとることとする。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3		HPでの公表している。	事業所の玄関にいつでも手に取れるよう掲示していく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3		第三者委員の設置・巡回は行っている。	今後第三者評価を実施して行きたいと考えている。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3		学校長期休み以外の毎月、午前中3時間を費やし、職員研修を行っている。	これまでは療育に関して、又は支援の方法等の研修が多かったが、今後脳機能の向上など科学的な面での研修も行っていきたいと考えている。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	3		SM社会生活能力をアセスメントの基軸に据え、全保護者の協力を得ながら、個別支援計画をより実際の側面から作成し、効果的なモニタリングに結びつけている。	適切なアセスメントから効果的な支援計画を策定しているが、課題の抽出を支援活動へ盛り込んでいることを、活動予定などを通じて毎月保護者に伝えていく。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3		法人内で共有しているアセスメントシート・モニタリングシートを活用した上で保護者面談を行い、目標や課題を保護者と共有している。	全員の職員の視点を取り入れより良い支援が出来るよう、担当者会議をしっかりと行う。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	3		活動目標を決め、それに沿って職員間で話し合い、担当が立案したものを検討共有している。	行った活動をしっかりと振り返り、次の支援につなげる。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3		児童の成長や季節、状況などを考慮し活動プログラムを決めている。	法人内の他事業所と連携しより良い活動プログラムを取り入れていく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	1	その日の状況に応じた個々の児童への関わり方を職員間で共有し支援にあたっている。	毎月活動プログラムを職員全員で計画しているが、もう少し領域ごとの活動効果を保護者にもわかりやすく伝え支援していく。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3		個々の児童に特性を十分に理解し、個別と集団の必要性を考慮したうえで作成している。	個別に必要な活動内容を、SM社会生活能力結果から読み取り支援内容に盛り込み丁寧に対応していく。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	2	1	活動内容を朝のミーティング時に行い役割を決めている。	毎月作成している活動内容を職員は各領域ごとに十分に理解して支援につなげる。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	1	その日の児童の様子を記入するケア記録を活用し、支援の振り返りに役立てた点を共有している。すり替えりミーティングは、翌日に行っている。	業務システムの利用時のケア記録をしっかりと確認していく。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3		その日の担当者がケア記録をとり、支援の効果や関わり方や課題を記入している。	記録の取り方について正しい記録が取れるよう指導する。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3		最低6か月に1度のモニタリングを行っている。	モニタリングシートを事業所、保護者共に記入していただき活用しているので引き続き行う。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	3		ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援の基本活動意識で行っています。	ガイドラインの読みこみを行い求められるサービスの充実に努めていく。
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3		児童発達管理責任者・担当指導員などが必ず参加している。	相談支援員さんの中には、学校や関係各所との連携会議を全く行わない相談支援所があるため、こちらから提案して開催していきたい。

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	3	学校や担任によって差が大きいです。必要な情報の取得や提供に努め、調整しています。	送迎時間の変更や送迎が遅れた場合には連絡を取り合い事前の調整や急な変更にたいおうしているが落ち着いて運転し、事後連絡も取り合い連携していくよう努める。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	対象者はいない。	受け入れ態勢がない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	情報を共有できるよう連携を深めていく。	就学前に何度か利用者に体験や訪問に来ていただいたり、入学前の利用できる日に少しずつ利用を開始していただくよう保護者と調整していく。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	これまで例はありませんが、最後のモニタリングを行っている。	保護者様の同意のもと、積極的に情報提供を行いスムーズに事業所を移行できるように配慮します。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	研修等積極的に受けていく。	顧問心理士による社員研修を定期的に行っているため積極的に参加し、支援力の強化に努める。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	児童館での利用人数が多すぎて、見守りに危険があるためあまり交流がない。	通常の学校に通っている児童は毎日交流をしているが、支援学校の児童は積極的に交流していけるように計画を立てる。連携する保育園とも交流を持っていく。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	自立支援協議会への参加への参加はなるべくしている	積極的に参加し、職員間での情報共有を行う。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3	送迎時や連絡帳で状況や課題を伝えている。	連絡帳のサイズを大きくし、写真を貼りより利用時の様子や活動が見えるようにしていく。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	1	顧問心理士の研修を受講しているため、それにそった助言等を行っている。	顧問心理士の研修や相談会に同席し、より保護者様支援や相談に対応できるスキル向上に努める。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	契約時に説明している。	いつでも手に取り閲覧できるよう玄関に掲示し、質問には随時丁寧に説明をしていく。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	2	1	悩みや相談事があった場合は、寄り添いながら助言を行っている。	ひとりの指導者では解決できなかったり、対応できない内容の場合は職員全員の意見や本部とれんれいするなどしっかりと対応していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	1	夏休みの活動や冬至イベントを開催し招待した。	保護者会の立ち上げを検討している。親子で参加できる行事を増やし、保護者同士の交流の機会も増やせるよう計画していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3	苦情受付ボックスを用意している。苦情受付・苦情解決者・第三者委員の連絡先も掲示公開している。苦情対応マニュアルにそって対応し、記録も残している。	マニュアルを整備して対応に備えており、迅速に事の詳細を説明し、保護者様の不安や不満の解消に努めている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	必要に応じて押れ背を作成し配布している。	POCCO通信を以外にも活動内容を詳しく記載した予定表をより充実させていく。年間行事予定も作成していく。	
	35	個人情報に十分注意している	3	口頭でも個人情報はしっかり守るようにしている。	書類関係は鍵のかかる書庫に保管している。PCの事業所外持ち出しを禁止していることを徹底確認する。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	個々の家庭の状況に合わせた伝達情報をとって対応している。	連絡帳に活動の様子の写真をはり、共有して行く。	
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	事業所見学会の開催やを行い、運営内容や民生委員数15名ほどの方にお越しいただき、活動内容、活動における支援効果などもお伝えした。	事業所見学会や地域の方も参加していただける活動を計画していく。	
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	1	策定したマニュアルの準備はあるが保護者様に周知されていない。	各種マニュアルを玄関に掲示したり、契約時・モニタリング時に説明をしていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	消防署の指導のもと、避難訓練を実施した。	防犯訓練なども行い、行った時には保護者様にも情報を共有していく。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	法人主催研修には全員参加した。県主催研修には担当者が参加した。	毎日のミーティング時にも虐待についての意識の向上に努めていく。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	身体拘束規定に沿って確認している。危険が伴うような場合など止むおえない場合には、身体拘束記録を行い保護者様に説明をする。	命にかかわるような緊急事態には身体拘束規定に沿って身体拘束を行いしっかりと記録をとり、保護者様に詳しく丁寧に説明し同意を頂く。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	アレルギー同意書は頂いている。	医師の指示書が必要な食物アレルギーの利用者さんはいないが、これから契約していく方の中で対象者がいた場合は、アレルギー検査結果を基に医師の指示書に従いしっかりと対応する。その場合全職員にしっかりと情報を共有していく。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	全職員が行っている事業所内だけでなく法人内での共有も行っている。	全社員がもっと積極的に取り組み事例検証を行い連携事業所と共有して行く。	